

支部 *Newsletter*

北海道支部

◎道南ブロック企画事業(報告)

11月12日(土)、令和4年度函館英語英文学会研究発表会が北海道教育大学函館校で開催され、本支部が共催しました。

◎第67回大会の開催(報告)

10月30日(日)、本支部第67回大会が北海道大学で開催されました。3年ぶりに対面での開催でしたが、1件の研究発表をはじめとして、文学部門シンポジウム「ケア文学の誕生—交差するケアと倫理と英文学—」、語学部門シンポジウム「使用基盤モデルの展開—英語の現象を例に一」、語学部門セミナー“Notes on Ellipsis: Syntax and Information”および文学部門、語学部門共通プログラム特別講演「二つの視点が重なるとき—マンガと言語の構造的類似性—」が行われ、充実したプログラムとなりました。

◎理事会および総会について(報告)

支部大会当日に開催された理事会では、議題2点と報告3点がありました。支部の活動方針や会計状況等について議論・承認された後、次年度支部大会開催ブロックが提案され、承認されました。また、総会では、活動報告、決算報告、次年度支部大会ブロックの報告がなされました。

◎支部理事選挙について(報告)

10月に実施された次期支部理事選挙で候補者が選出されました。選挙管理委員は英美由紀氏(藤女子大学)と対馬康博氏(同)が務めました。

◎新支部体制について(報告)

支部大会当日、支部規約に則り、新しく選出された理事による新理事会での審議を経て、新支部体制は、以下のように承認されました。(敬称略、五十音順)

支部長：奥聡(北海道大学)

副支部長・本部評議員：松井美穂

(札幌市立大学)

副支部長：野村益寛(北海道大学)

理事：奥聡、金井彩香(酪農学園大学)、鎌田禎子(北海道医療大学)、眞田敬介(札幌学院大学)、瀬名波栄潤(北海道大学)、対馬康博(藤女子大学)、十枝内康隆(北海道教育大学旭川校)、野村益寛、藤田佳也(酪農学園大学)、松井美穂

会計監査委員：渡部あさみ(北海学園大学)

事務局長：三好暢博(旭川医科大学)

事務局長補佐：山口和彦(札幌医科大学)、西真木子(札幌学院大学)

また、本部理事には奥聡氏を候補者として推薦することになりました。運営委員会の構成については、支部ホームページにて別途ご案内致します。

◎『北海道英語英文学』第68号の原稿募集について

現在、『北海道英語英文学』第68号に掲載する原稿を募集しています。締切は2023年5月10日必着です。詳細は別途発行の『北海道英語英文学』第67号(『英文学研究 支部統合号』第15巻)の巻末または支部ホームページをご覧ください。

◎第68回支部大会について

2023年度支部大会は、道央ブロックの藤女子大学での開催に決定しました。日程については確定し次第、支部ホームページにてご案内致します。

◎2023年度の事務局について

2023年度の事務局は以下の通りです。

〒078-8510 旭川市緑が丘東2-1-1

旭川医科大学医学部 一般教育

英語第2研究室内

[TEL/FAX] 0166-68-2734 (研究室直通)、

0166-68-2740 (担当事務)

[メールアドレス] hokkaido@elsj.org

[ホームページ]

<http://www.elsj.org/hokkaido/index.html>

◎会員情報更新のお願い

氏名、住所、メールアドレス、職位、勤務

先の異動等があった際には、速やかに日本英文学会本部事務局ならびに支部事務局へご連絡ください。また、メールアドレスを登録されていない方はご登録をお願い致します。ご登録の際には、本部と支部の両事務局にお届けくださいますようお願い申し上げます。

(文責 藤田佳也)

東北支部

◎第 77 回支部大会開催報告

第 77 回東北支部大会が、2022 年 12 月 10 日(土)に、対面にて、開催されました。参加者はおよそ 50 名を数えました。8 件の研究発表および 2 件のシンポジウムが行われ、活発な質疑応答が展開されました。

三年ぶりに、対面形式で、開催しました。様々な協議と入念な準備を経てなんとか開催にこぎつけ、無事に終えることができました。大会準備委員、開催校委員の皆様、研究発表された皆様、司会、シンポジウム講師を務められた皆様、そして当日参加された会員の皆様にはこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

詳細は東北支部ホームページ (<http://www.elsj.org/tohoku/index.html>) をご覧ください。

◎東北支部研究振興事業「若手研究者のためのトラベル грант」次回締切

東北支部の研究振興事業「若手研究者のためのトラベル грант」は若手研究者の支援を目的とし、4 月 1 日、10 月 1 日と年 2 回の締切を設けて募集を行なっています。次回の締切は 2023 年 4 月 1 日です。応募希望者は、支部ホームページ上にある申請書ファイルをダウンロードのうえ、事務局 (tohoku@elsj.org)宛にご応募ください。

◎支部役員選出

10 月から 11 月にかけて支部役員選挙が実施され、選挙結果にもとづいて次期役員が選出されました。新たに選出された支部・本部役員、理事は以下のとおりです。

支部長・本部理事：福士航(東北学院大学)
副支部長・本部評議員：大貫隆史(東北大学)

理事：井出達郎(東北学院大)、大河内昌(東北大学)、大西洋一(秋田大学)、大貫隆史(東北大学)、木村宣美(弘前大学)、三枝和彦(山形大学)、境野直樹(岩手大学)、島越郎(東北大学)、高田英和(福島大学)、竹森徹士(宮城教育大学)、福士航(東北学院大学)

◎『東北英文学研究』第 13 号発行および第 14 号原稿募集

『東北英文学研究』第 13 号が『英文学研究支部統合号』第 15 巻に合本される形で発行されました。また、現在『東北英文学研究』第 14 号の原稿を募集しています。締切は 2023 年 4 月 30 日です。支部ホームページにある投稿規程をご覧くださいの上、事務局 (tohoku@elsj.org)宛に、どうか奮ってご応募ください。

(文責 高田英和)

関東支部

◎関東支部第 22 回大会(2022 年度秋季大会)について

日本英文学会関東支部第 22 回大会(2022 年度秋季大会)が、2022 年 10 月 30 日(日)に中央大学市ヶ谷田町キャンパスにて開催されました。夏季大会に続き対面で開催いたしましたが、盛会のうちに無事終了することができました。当日ご登壇、ご発表くださった皆様、ご参加くださった皆様に重ねて御礼申し上げます。開催のためにご尽力くださった大会準備委員の皆様にも感謝申し上げます。

◎関東支部第 23 回大会について

日本英文学会関東支部第 23 回大会は、全国大会が 2023 年 5 月 20 日(土)・21 日(日)に関東学院大学関内キャンパス(神奈川県横浜市)で開かれるため、2023 年秋に開催いたします。具体的な開催形態と日程は 2023 年 4 月の大会準備委員会にて検討されます。研究発表応募締切は 2023 年 6 月末を予定しています。詳細は関東支部 HP (<http://www.elsj.org/kanto/index.html>) をご覧ください。

◎『関東英文学研究』第16号について

『関東英文学研究』第16号への投稿を募集しております。締め切りは2023年5月15日(月)(必着)です。奮ってご投稿ください。投稿規定につきましては、関東支部HP、および『関東英文学研究』第15号の巻末をご覧ください。

◎2022年度関東支部総会報告

2022年10月30日(日)に中央大学市ヶ谷田町キャンパスにおいて2022年度関東支部総会が開催されました。主な議題は以下の通りで、すべてご承認いただきました。皆様のご協力で御礼申し上げます。

1. 支部長報告(2023-24年度関東支部理事会の構成、監事、関東支部出版事業について、2023年度全国大会について)
2. 大会準備委員会報告(2022年度秋季大会について)
3. 編集委員会報告(『関東英文学研究』第15号について)
4. 事務局報告(2021年度収支決算・会計監査について、関東支部の講師派遣事業について)

◎理事会報告

2022年10月30日(日)に中央大学市ヶ谷田町キャンパスにおいて2022年度第2回理事会が開催されました。主な議題は以下の通りです。

1. 支部長報告(2022年度総会の開催について、役員選挙について、2023年度全国大会について、出版事業について)
2. 大会準備委員会報告(2022年度秋季大会、次年度の委員人事など)
3. 編集委員会報告(『関東英文学研究』第15号、次年度の委員人事など)
4. 事務局報告(2021年度会計監査、講師派遣事業、ハラスメント規定起草委員会(仮称)委員の選出、支部大会研究発表応募要領の変更について)
5. 関東支部役員選挙規定の改正
6. 関東支部新体制について
7. 理事会推薦理事の選出について

◎編集委員会報告

2022年9月11日(日)に、Zoomミーティングにて2022年度第3回編集委員会が開催されました。主な議題は以下の通りです。

1. 2022年度優秀論文賞・若手奨励賞について(該当論文なし)
2. 特別寄稿論文査読報告、判定
3. 2022年度再投稿論文査読報告、判定
4. 投稿規定について(共著論文執筆者の会員資格について)
5. 2023年度の後任委員(敬称略：以下同様)
2023年度委員長 牧野理英(日本大学)
増田珠子(駿河台大学)→小池久恵(医療創生大学)
兼武道子(中央大学)→田代尚路(大妻女子大学)
和治元義博(北里大学)→高木真佐子(杏林大学)
石原剛(東京大学)→佐久間由梨(早稲田大学)
古井義昭(立教大学)→貞廣真紀(明治学院大学)
倉林秀男(杏林大学)→古谷裕美(関東学院大学)

◎大会準備委員会報告

2022年10月30日(日)に中央大学市ヶ谷田町キャンパスにおいて2022年度第3回大会準備委員会が開催されました。主な議題は以下の通りです。

1. 2023年度副委員長(2024年度委員長)(敬称略：以下同様)
川本玲子(一橋大学)が2023年度副委員長に選出された。
なお、2023年度委員長は中嶋英樹(多摩美術大学)。
2. 2023年度の後任委員
山本真司(青山学院大学)→今野史昭(明治大学)
加藤有佳織(慶應義塾大学)→松井一馬(中央学院大学)
宮本文(専修大学)→山中章子(日本工業大学)
関戸冬彦(白鷗大学)→水口小百合(江戸川大学)

3. 今後の大会企画担当
4. 2023 年度秋季大会について
会場は実践女子大学渋谷キャンパスを予定。開催日時と形態、懇親会の有無について 2023 年 4 月に開催される委員会で検討する。
5. 研究発表応募要領の改定について(受付方法と「発表要旨」の字数の改定)
6. 会員持ち込み企画について
7. 今後の予定

◎ 2023-2024 年度日本英文学会関東支部役員 選挙結果報告

2022 年 10 月 5 日(水) 締切にて電子投票により関東支部役員選挙を実施しました。結果を下記のとおり報告いたします。

【選挙選出理事 10 名】(50 音順、敬称略)
阿部公彦(東京大学)、新井潤美(東京大学)、アルヴィ宮本なほ子(東京大学)、奥聡一郎(関東学院大学)、越智博美(専修大学)、斎藤兆史(東京大学)、諏訪部浩一(東京大学)、舌津智之(立教大学)、武田将明(東京大学)、原田範行(慶應義塾大学)

* 理事会選出理事は、第 3 回理事会にて選出されます。

【2023 年度日本英文学会関東支部】(敬称略)
支部長：佐藤和哉(日本女子大学)
本部理事候補：阿部公彦(東京大学)、佐藤和哉(日本女子大学)、武田将明(東京大学)
評議員：諏訪部浩一(東京大学)
事務局長：古屋耕平(青山学院大学)

◎ 事務局よりご連絡

1. 次回の関東支部大会は 2023 年度秋季大会となります。研究発表への積極的な応募をお待ちしています。研究発表をご検討の方は、支部 HP をご参照の上、どうぞ奮ってご応募ください。
2. 『関東英文学研究』第 15 号には、7 本(イギリス文学 4 本、アメリカ文学 2 本、英語学・英語教育 1 本)の投稿論文が寄せられ、そのうち 2 本が掲載可となり、特別寄稿論文と合わせて 5 本が掲載されまし

た。今後も関東支部は、意欲ある研究者を応援いたします。優秀な論文には、若手奨励賞・優秀論文賞を授与しています。ぜひ積極にご投稿ください。

3. 2022 年 8 月 26 日(金)に岡山市民会館大ホールにて、岡山県立岡山朝日高等学校進路教養講座講演会(日本英文学会関東支部共催)「学問の魅力——創作文体論入門」が開催されました。講師は東京大学大学院教育学研究科の斎藤兆史教授(関東支部理事)です。本講演会は関東支部の講師派遣事業の一環として行われました。

4. 関東支部では、中学校、高等学校、大学、社会教育施設、生涯教育機関を対象に、日本英文学会関東支部の会員を英米文学、英米文化、英語、英語教育に関する講演や授業に講師として派遣し、ひろくその理解を深める機会を提供しています。講師派遣に関わる講演料の一部は関東支部の基金から支出します。講演や授業をご希望の中学校、高等学校、大学、社会教育施設、生涯教育機関関係者の方々は、ぜひ関東支部事務局(kanto@elsj.org)までご連絡ください。詳しくは、支部 HP の「講師派遣事業」のページ(<http://www.elsj.org/kanto/haken.html>)をご参照ください。
(文責 久世恭子)

中部支部

◎ 第 74 回支部大会報告

中部支部第 74 回大会は、名城大学を大会開催校として、2022 年 10 月 22 日(土)に Zoom を用いたオンライン大会として開催されました。大会ではシンポジウム 3 件と研究発表 7 件が 4 室に分かれて行われ、参加者は実数で約 110 名でした。

シンポジウム・研究発表は知的刺激に満ちたものが多く、質疑応答でも活発な議論の花が咲き、盛会のうちに終了しました。また、今回の大会には他支部の会員様が多数参加されました。開催校である名城大学関係者の皆様、Zoom 開催にご協力いただきました会員の皆様、大会に参加された会員の皆様、シンポジウム講師、研究発表者、司会者の皆様に

は厚くお礼申し上げます。

大会プロシーディングズは、中部支部ウェブサイトに2023年2月1日ごろ掲載されますので、ぜひご覧ください。また、今回のご発表の内容を論文にまとめ、『中部英文学』へのご投稿を検討していただければ幸いです。

◎支部総会報告

支部大会がオンラインでの開催となったことに伴い、支部総会もまたオンライン開催となりました。昨年10月22日(土)に開催された総会において、以下の議題が報告もしくは提案され、了承されました。なお、総会資料・議事録につきましては支部ウェブサイトに掲載します。

1. この一年の活動報告
2. 前年度会計決算報告
3. 今年度予算案
4. 次年度の支部運営体制について
5. 次年度以降事務局担当校ならびに支部大会開催校について
6. 理事選挙・次期役員選出について

◎『中部英文学』第43号投稿募集

『中部英文学』第43号投稿の締切は4月10日(月)必着です。執筆ご希望の方は投稿規定を熟読・厳守の上、奮ってご応募ください。ここ数年は『中部英文学』への投稿数が減少傾向にあります。今後の学会誌の質の維持のために、ぜひ大学院生や若手研究者の皆様を中心に『中部英文学』への投稿をご検討ください。

◎第75回支部大会発表募集

第75回支部大会は今年10月、岐阜市立女子短期大学にて開催されます。研究発表応募締切は5月31日(水)必着です。発表ご希望の方は応募要領を熟読され、お早めに必要書類送付と年会費支払いをお願いします。『中部英文学』同様、近年、研究発表の応募者が少ない状況が続いております。こちらもぜひ奮ってご応募ください。

◎つねに最新の会員情報をお知らせ下さい

氏名、住所、メールアドレス、勤務先、職

位等の異動がおありの場合は、すみやかに本部事務局と支部事務局の両方にご連絡ください。また、メールアドレス未登録の方は、業務効率化のため、ぜひともご登録をお願いいたします。いただいた個人情報は、中部支部の業務のみに使用し、他の用途にはいっさい使用いたしません。

(文責 前田満)

関西支部

◎関西支部第17回大会について

2022年12月18日(日)11:00より、甲南大学にて関西支部第17回大会が開催されました。3年ぶりに対面形式による実施となりましたが、大きな混乱はありませんでした。当日の登壇者並びに管理運営に携わって下さった皆様に厚く御礼申し上げます。今回は4件の招待発表を含む16件の研究発表と、英米文学部門および英語学部門の2件のシンポジウムが行われました。出席者はのべ100名近くに上り、盛況のうちに大会は終了しました。今年度も残念ながら懇親会を開くことはできませんでしたが、来年度の大会も皆様と会場でお目にかかれることを期待したいと存じます。

◎役員会および総会について

支部大会当日に開催された理事・評議員合同役員会では、昨年度の会計報告に引き続き、機関誌編集委員長代理と大会準備委員長からそれぞれ報告があったほか、第18回支部大会は神戸大学を開催校として2023年12月17日(日)に実施予定であることが支部長から報告されました。また、評議員選出に関する規約の一部改正が提案されるとともに、理事選挙のあり方について若干の意見交換が行われました。総会でも以上の内容とほぼ同様の報告がなされ、来年度の支部大会会場となる神戸大学の開催校委員からの挨拶がありました。

◎次期支部体制について

2022年9月から11月にかけて支部理事選挙を行いました結果、次の10名の次期支部

理事が選ばれました。圓月勝博(同志社大学)、里内克巳(大阪大学)、竹村はるみ(立命館大学)、西谷拓哉(神戸大学)、服部典之(関西外国語大学)、廣野由美子(京都大学)、水野眞理(京都大学名誉教授)、山田雄三(大阪大学)、横内一雄(関西学院大学)、渡邊克昭(大阪大学)の各氏です。

◎機関誌第 17 号の投稿について

『関西英文学研究』第 17 号の投稿締切は 4 月末日です。電子媒体での投稿となります。詳しくは HP で投稿規定をご確認ください。なお、修士号取得 7 年以内の関西支部会員ならびに準会員による優れた論文には関西支部奨励賞(過去にこの賞を受賞していない者が対象)が授与されます。奮ってご投稿ください。

◎関西支部第 18 回大会の研究発表の応募について

関西支部第 18 回大会は、2023 年 12 月 17 日(日)神戸大学にて開催される予定です。日程は変更の予定があるため、開催様式の通知も含めて、支部ホームページを随時ご確認ください。また、研究発表の応募締切は 6 月下旬の予定です。4 月中旬頃に関西支部ホームページに掲載する詳細をご確認の上、奮ってご応募ください。

◎関西支部の各種事業について

現在関西支部では、支部機関誌の発行と支部大会の開催に加えて、海外研究者招聘後援事業、講演会補助事業、学会発表補助事業を行っています。以上、事業の趣旨に合致するケースがありましたら、是非ご活用ください。規約、役員、機関誌の投稿規定、奨励賞の選考基準、研究発表の応募要項、各種事業の詳細については、関西支部ホームページをご覧ください。

◎お詫びと訂正

『関西英文学研究』第 16 号の p.49 (193) に掲載されている執筆者一覧において、澤田治美先生を関西外国語大学教授と記載しておりましたが、正しくは関西外国語大学名誉教授

でした。お詫びのうえ訂正申し上げます。

(文責 金山亮太)

中国四国支部

◎中国四国支部第 74 回大会報告

2022 年 10 月 22 日(土)に、中国四国支部第 74 回大会がオンラインで開催され、盛会のうちに全プログラムを無事に終了することができました。ご協力いただいた学会員の皆様にはたいへんお世話になりました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

今林修支部長による開会の辞をもって開会式が行われたあと、研究発表、シンポジウム、特別講演が行われました。研究発表は、英語学関係 3 編、イギリス文学関係 3 編、アメリカ文学関係 3 編、英語教育関係 3 編の計 12 編が行われました。続いて、広島大学教授の今林修氏(モデレーター)の主導のもと、永崎研宣氏(一般財団法人人情情報学研究所主席研究員)、横山説子氏(シンガポール工科大学助教)、北村紗衣氏(武蔵大学准教授)、田畑智司氏(大阪大学教授)によるシンポジウム「デジタル時代の英語英米文学研究と英語教育——デジタル・ヒューマニティーズの有用性と可能性を考える」がありました。特別講演は、高橋渡氏(県立広島大学名誉教授・元中国四国支部支部長)による「文学論：漱石・ジョイス・・・」(司会：安田女子大学准教授 田多良俊樹氏)がありました。その後、水野和穂副支部長の閉会の辞をもちまして全日程を終了しました。

◎理事会報告

支部第 74 回大会に先立ち、10 月 21 日(金)午後のオンライン理事会にて次の議題が審議されましたのでご報告いたします。

1. 会計報告および会計監査報告
西野友一朗事務局長補佐が 2021 年度決算報告を行い、会計監査(天野みゆき氏、栗原武士氏)により適切に会計処理されていることが報告され、承認されました。
2. 第 75 回支部大会について
日本英文学会中国四国支部第 75 回大会は、2023 年 10 月 28 日(土)と 29 日(日)に、

島根県にて開催されることが報告され、承認されました。

3. 学会誌編集委員の交代について

2023年度の学会誌編集委員につきまして、以下の通り交代することが報告され、承認されました。

平山直樹氏(2023年度末まで)

矢口朱美氏(2023年度末まで)

木原泰紀氏(2023年度末まで)

藤吉知美氏(2022年度末まで編集補助委員、2023年度から編集委員)

4. 規約の改正について

日本英文学会中国四国支部規約の改正が提案され、10月22日(土)に開催された総会にて承認されました。新しい規約は支部ウェブサイトに掲載しています。

◎支部理事選挙の結果と新支部理事

支部理事選挙の結果、今林修、太田聡、大地真介、小野章、城戸光世、栗原武士、高口圭轉、島克也、松浦雄二、水野和穂(敬称略・五十音順)の10名が新理事に選出されました。

上記10名の新理事による新理事会を開き、「日本英文学会中国四国支部規約」第五条2項に則り、選挙によって選出された新支部理事により、委員会役職、地域性、性別、専攻分野などを配慮し、五百藏高浩、菅田浩一、辻祥子、山内暁彦、和田綾子、渡辺浩(敬称略、五十音順)が新理事に追加選出されました。任期は2023年4月から2025年3月まで。

◎新支部理事会の報告と新支部体制

1. 新しく選出された理事による新理事会での合議を経て、太田聡氏(山口大学)が次期支部長に選出されました。任期は2023年4月から2025年3月まで。

2. 支部規約に則り、次の役員が選出されました。任期は2023年4月から2023年5月まで。(敬称略)

・副支部長：小野章(広島大学)

・事務局長：田多良俊樹(安田女子大学)

・事務局長補佐：周躍(呉工業高等専門学校)

・会計監査：栗原武士(県立広島大学)、西野友一郎(岡山理科大学)

・学会誌編集委員長：那須雅子(岡山大学)

・選挙管理委員長：大地真介(広島大学)

・選挙管理委員：城戸光世(広島大学)、島克也(安田女子大学)

3. 各県の推薦制代表者が選出されました(敬称略)。

・鳥取：和田綾子(鳥取大学)

・島根：松浦雄二(島根県立大学)

・岡山：渡辺浩(就実大学)

・広島：高口圭轉(安田女子大学)

・山口：太田聡(山口大学)

・徳島：山内暁彦(徳島大学)

・高知：五百藏高浩(高知県立大学)

・愛媛：辻祥子(松山大学)

◎支部大会開催のお知らせと研究発表の募集

2023年度の第75回大会は、10月28日(土)・29日(日)の両日、島根大学松江キャンパス(松江市)で開催いたします(開催責任者：松浦雄二)。大会案内は2023年3月頃にメールおよび支部ウェブサイトにて配信いたします。研究発表の募集の締め切りは、5月15日(月)(必着)です。たくさんのご応募をお待ちしております。

◎学会誌の原稿の募集

支部学会誌『中国四国英文学研究』第20号(英文学研究支部統合号第16巻)の原稿を募集いたします。締め切りは、5月15日(月)(必着)です。投稿規程は、支部ホームページ(<http://www.elsj.org/chu-shi/studies.html>)をご覧ください。

(文責 島克也)

九州支部

◎日本英文学会九州支部第75回大会は、令和4年10月22日(土)、23日(日)の両日に、西南学院大学(福岡市)で対面形式で開催いたしました。

◎令和3年度第2回支部編集委員会が令和4年10月22日(土)の午前に、西南学院大学で対面で開催されました。また、編集委員会の終了後、支部評議員会・理事会の合同

会議が開催されました。主な報告事項、議題は下記のとおりです。議事録は支部ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

《編集委員会議事録》

1. 『九州英文学研究』第38号（支部統合号 Vol. XIV）の刊行について
2. 『九州英文学研究』第39号（支部統合号 Vol. XV）について
3. 九州支部学会賞（「優秀論文賞」、「奨励賞」）の審査について
 - ・今年度は奨励賞を、森竹希望氏（九州大学大学院人文科学府博士課程、令和3年3月修士号取得）の論文“On the Derivation of There-Constructions: A {There, Associate} Analysis”に授与することを決定した。
4. 「招待発表者」ならびに懇話について
5. 令和5年度の支部大会について
 - ・編集委員会の時点で未定だったが、2023年10月14日（土）、15日（日）に宮崎大学で開催できるめどが立ち、了承された。

《支部評議員会・理事会議事録》

1. 活動報告
 - ・『九州英文学研究第38号』刊行、大会 Proceedings の Web 掲載
 - ・第74回支部大会（2021年10月16日～17日）リアルタイムのオンライン開催
 - ・理事会・評議員会（2021年10月16日）オンラインでの会議
 - ・編集委員会（2021年度第2回：2021年10月16日オンラインでの会議、2022年度第1回：2022年7月30日オンラインでの会議、2022年度第2回：2022年10月22日対面での会議）
 - ・第75回支部大会（2022年10月22日、23日）西南学院大学で対面のみで開催
2. 会計報告
 - ・令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）の支部会計報告が行われ、監査の黒木隆善氏（九州共立大学評議員）による監査が行われた旨が報告された。
 - ・令和4年度会計の中間報告、ならびに令

和5年度予算案が提案され、承認された。

3. 統合号出版経費負担について
4. 編集委員会報告
 - ・上記の通り。
5. 評議員校について
 - ・九州国際大学、熊本県立大学、西南学院大学、長崎大学、福岡教育大学で評議員の交代があった。
6. 令和4年度全国大会・九州支部大会の開催について
 - 第95回全国大会は関東学院大学関内キャンパスの予定。第76回九州支部大会はこの会議の時点では未定だったが、その後、2023年10月14日（土）、15日（日）に宮崎大学で開催できるめどが立ち、了承された。
7. 理事名、評議員名、編集委員名の確認
8. 次期事務局について
 - 鹿児島大学の竹内勝徳先生に次期支部長を務めていただくことになった。
9. 『九州英文学研究』投稿規定の修正（「アブストラクト」の扱い）
 - 現在、論文投稿者には、600語以内の英語のアブストラクトの提出を求めている。これは審査に用いるだけで、統合号に掲載をしていない。これを掲載することとし、あわせて投稿規定を次のように改めることを決定した。
 - ・「アブストラクト」という用語は、他の支部にあわせて「シノプシス」に変更する（④、⑤、⑥、⑨にあり）。
 - ・長さは300語以内に変更する。
 - ・⑤の「英文論文およびアブストラクトは、投稿前に英語母語話者による英文のチェックを受けることが望ましい。」を「英文論文およびシノプシスは、投稿前に英語母語話者による英文のチェックを必ず受けること。」に変更する。
 - ・シノプシスの載せ方（それぞれの論文の後に載せるか、シノプシスだけまとめるか）は来年度に編集委員会で協議する。

九州支部ホームページ

<http://kyushu-elsj.sakura.ne.jp/>

（文責 鶴飼信光）